

令和元年度 第50回千葉県中学校新人バスケットボール大会 総評

第50回千葉県中学校バスケットボール新人体育大会は11月3日（日）、11月9日（土）、10日（日）の3日間、のさかアリーナをメイン会場として行われた。

男子のベスト4には、大会2連覇をねらう八千代松陰中学校を筆頭に、成田市立西中学校、市原市立ちはら台南中学校、船橋市立葛飾中学校と、いずれも関東大会出場歴のある名門校が顔を連ねた。準決勝では、いずれも激戦が繰り広げられた。Aコートの八千代松陰VS成田西は、成田西中が決勝進出。Bコートの葛飾VSちはら台南は、葛飾中が決勝進出となった。

男子決勝戦第1Q、成田西は序盤からエース諏訪が得点を重ねていく。対する葛飾は#5竹江の3P、#8清水、#10布施のドライブで食らいつき、一進一退の攻防が続いた。第2Q、葛飾のディフェンス力が本領を發揮し始める。成田西#4諏訪へのアシストを組織力で封じ込みインターセプト。速い展開から#5竹江の連続3P、#11坂本の3Pで得点。また#7斎藤、#18松下の個人技で成田西を引き離しにかかる。前半は、36対20で葛飾がリードして折り返した。後半3Q序盤はお互いに守り合いが続いたが、攻めあぐむ成田西に対し、葛飾はリバウンド、スティールからの速攻で立て続けに得点する。4Q成田西は足を生かし、速攻から速い展開で得点を重ね、点差を縮めるが、すかさず葛飾が反撃。#5竹江の外角、速攻からの得点で追撃を許さない。終盤、成田西はオールコートディフェンスからの速攻、#4諏訪がオフェンスリバウンドから得点するなど意地を見せ最後の力を振り絞るが万事休す。終始、組織力・総合力で成田西を上回った葛飾が令和初の千葉県新人大会の覇者となった。

一方女子のベスト4は、昨年度新人大会の雪辱をねらう昭和学院中学校とそのライバル翔凜中学校、さらに習志野市立第一中学校、激戦区市川浦安地区から昭和学院を追う市川市立第三中学校が名を連ねた。準決勝Aコートの昭和学院VS習志野一は、習志野一が終始リードを守り決勝進出。Bコートの市川三中VS翔凜中は、接戦の末で市川三中が決勝に進出した。

女子決勝戦、習志野一はハーフコートマンツーマン、市川三はオールコートマンツーマンでスタート。1Q習志野一は、#4坂口の1ON1、ポストプレーを中心に得点を重ねる。市川三は、#7和田、#8米澤、#10牧野がドライブを中心に、得点を重ねる。2Q習志野一は、引き続き#4坂口を中心としたオフェンスを展開、ディフェンスの圧力を強め、速攻で得点。市川三は#10牧野のリバウンドシュート、ドライブなどで得点し、前半を終える。3Q市川三は、#4中西のドライブや、オフェンスリバウンドからの#8米澤のバスケットカウントなどで得点し、主導権を握る。習志野一も#5落合のジャンプシュートやリバウンドシュートなどで、得点、終盤には#11谷水の3Pやミドルシュートなどの連続得点で点数を詰め、3Qを終える。4Q市川三は#11丸山、#4中西などのカットインを中心に得点を重ねる。対する習志野一は、#4坂口のカットイン、ジャンプシュート、#7関、#11谷水による3連続3Pにより、残り3分で同点に。残り30秒、市川三#7和田がリバウンドシュートを決めて、2点をリードし、試合終了。決勝戦にふさわしい白熱したゲームであった。

千葉県大会において、マンツーマンコミッショナーを全試合に配置して運営するようになってから今年で3年目を迎えた。今大会、多くのチームがマンツーマンディフェンスを強化してきたことがうかがえたのと共に、ディフェンス力のあるチームが上位に勝ち上がってきた印象が強い。選手個々の競技力の向上を図るためのこの取り組みが、各地区の先生方の努力によって浸透してきたと言えよう。この冬の地区リーグ、県リーグや各地区DC、県DCを経て成長を遂げた選手、チームたちが、春の選手権大会で再び県大会でしのぎを削る姿が見られることが楽しみである。

最後に、大会の運営に献身的に携わってくださった香取・東総両地区の先生方、TOや会場準備など、試合がなくとも運営に尽力した生徒の皆様、支部外からお手伝いいただいた先生方、バスケットボール関係者の皆様のご協力により大会を無事終えられたことに、心より感謝申し上げます。